

事務事業名	療育相談事業（ことば・発達相談）	事務事業No.	10203000345	所属課	健康推進課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
昭和57年、ことばの遅れがある子が増加してきた。また、住民でダウン症の子が下妻社会福祉協議会開催のポーター教室に参加しているため町で開催してほしいとの希望あり。昭和58年から旧岩瀬町で開催し、合併後も継続している。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
身近な場所で、専門家による市主催の療育指導が受けられてよい。同じ悩みを持つ保護者同士の交流ができる。また療育相談事業を通して、早期に学校教育課に就学の相談ができたことで早くから考えることができてよかったとの意見もあった。学校教育課からも保護者と早期に面接ができ就学指導がスムーズにしているとの声もあった。保護者からは、回数を増やして欲しいとの声もでている。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 障害のある児やその疑いのある児と保護者が、地域で安心して生活できる体制が必要である。市の障害者計画の早期発見・早期療育の充実が位置づけられている。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称） <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 発達障害者支援法で早期発見及び早期支援等、技術的援助を行うよう定められている。また、各医療機関や児童相談所、保健所と連携しながら早期支援を図る必要がある。
有効性	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？） <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 連携のとっていない認定こども園等もあるので就学児童委員会等を通して周知していく。また、各種健診でことばの遅れ等ある児の保護者には相談室の参加推奨をしているが、参加を希望しない保護者もいるので、受容しながら療育支援をしていく。
	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？） <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 障害児や発達障害の疑いのある児の発見や早期支援ができなくなり、集団生活や就学後の児の抱える問題や保護者の子育てへの不安が大きくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合） <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる 具体的な手段、事務事業名 障害福祉サービスの児童発達支援事業、保健所発達相談事業と連携をしていくことができる。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？） <input type="checkbox"/> 削減余地がない 療育指導員の専門職種の確保は療育指導の精度を高め維持するためにも必要である。また療育指導員の人件費を令和元年度に見直ししており、これ以上の削減余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 相談や健診受診時に、経過観察が必要な児については専門職種の相談に向けているので公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																	
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	ことばの遅れや落ち着きのなさがあるなど、相談の機会や療育支援が必要な児に対し、現在の療育利用支援枠を超える時もあり、適切な時期に支援が受けられない状況もあった。回数で見直しの検討や児童発達支援サービスの利用に結びつけるなどの方法が必要である。																	
②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果																	
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状維持		（複数回答可） <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる																	
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 専門職種（療育指導員や臨床心理士、言語聴覚士）の確保が困難な状況の為、専門職種の確保が課題である。		コスト <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			削減	維持	増加	向上		○		維持			×	低下			×
	削減	維持	増加																
向上		○																	
維持			×																
低下			×																
		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ③																	

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A：継続（現状維持） B：継続（改革改善を行う） C：終了、廃止、休止 D：2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>